

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2172000503
法人名	有限会社 吉良見ライフサービス
事業所名	グループホーム きらみ
訪問調査日	平成 19年5月31日
評価確定日	平成 19年7月12日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2172000503
法人名	有限会社 吉良見ライフサービス
事業所名	グループホーム きらみ
所在地	岐阜県恵那市明智町吉良見472-23 (電話) 0572-62-1133

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年5月31日	評価確定日	平成19年7月12日

【情報提供票より】(平成19年4月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 7.2

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 平屋建て
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	63,000 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(40000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	420 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1050 円	

(4) 利用者の概要(4月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田診療所 国保上矢作病院 阿部歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山野に囲まれた里山風景の残る自然豊かな地区の中心にある。保育園・小学校も近く朝夕子供たちの声が聞こえ、住民の生活道路に繋がり、地域住民の一員として共に暮らしやすい環境にある。職員も地域住民で顔なじみの関係にあり地域に密着した交流や協力がある。利用者の健康管理や身体機能維持には協力医療機関から定期的に往診を受け、緊急や異常時にも24時間365日の対応と連携で安全が確保され安心できる。外気に触れることを大切に買い物、温泉、花見、回想法センター等に出かけ、人と話し一緒に行動し「生き生きとした生活を継続する」ことが身体機能維持と考えている。職員の利用者一人ひとりに合った優しい対応がみられる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直し、確実な申し送り・情報伝達、入居者一人ひとりの尊重、入居者の状態に応じた職員の確保、注意の必要な物品の保管・管理、市町村との関わりの改善課題について具体的に改善された部分と一部については取り組み中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長、管理者、職員は自己評価、外部評価について、そのねらいや活かし方を会議で話あっている。評価結果についても全職員で項目一つ一つを具体的に意見交換しながら理解と実践に繋げる取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期に会議を開催し、ホームの取り組みの報告や参加者の意見交換をしている。「職員の名前が分かるように」との要望に即対応している。緊急時の通報装置を活かし、地域住民代表に直接通報できる了解が得られ地域密着の協力体制ができたり、避難訓練も地域住民と一緒にできる計画も話し合われている。ホームの代表や他職員も地域に暮らし、近隣住民と顔なじみもあり、行政(他市町村)職員担当者との意見交換や問題・課題の解決により関係づくりを図っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「ほほえみ便り」を発行しホームの様子・利用者の暮らしぶりを知らせている。金銭管理は個々に、月末に領収書を沿え精算処理をして明確にしている。運営に関する意見苦情などホーム担当者は勿論、外部相談員を選任し自由に言いやすい工夫がある。介護相談員の受け入れ準備をしたり運営推進会議にも参加を促し、地域に密着した要望を運営に反映したいと積極的である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは通学路や、住民の生活路に面し、隣にふれあいセンター、ペタンク場があり子供や住民の声が聞かれる。散歩時も声をかけたり立ち寄りすることも多く、職員も地域住民でお互いが顔なじみであるので老人会や行事に参加している。災害にも協力連携体制が築かれつつあり安心できる。保育園児・小学生は利用者と遊び、中・高校生は体験学習したり地域で共に暮らす取り組みがみられる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書や玄関に掲示し周知しているが、「地域の中でその人らしく暮らし続けること」を明確でなかったため現実に即した又行動指針に沿ったインパクトの強いものを職員一丸となり見直し検討中である。	<input type="radio"/>	初心に立ち返り、ゆっくり、じっくり考慮されることも重要だが、事業所独自の基本方針に沿った理念を職員も意識し早急に作りあげられる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議でホーム長、管理者、全職員で実践に活かせる理念作りに意見を出し合っている最中である。共有するには全職員が納得できるにふさわしいものをと考えている。	<input type="radio"/>	職員一人ひとりが理念について真剣に向き合い作成されたものは、現場で活かされホームの質の向上に繋がるものと考えられる。利用者・家族・運営推進会議にも是非明示されることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児・小学生は玉入れやボーリングで楽しみ、中学生・高校生は体験学習に訪れている。近隣住民とは散歩道で声かけあったり、野菜や川魚をいただいたり、立ち寄って一緒にお茶を飲み交流がある。隣接するふれあいセンターで行われる行事には、誘いを受け利用者も参加したり、敷地内にペタンク場を貸し一緒に楽しい時間を共有している。	<input type="radio"/>	代表・管理者・職員はすべて地域住民で顔なじみの関係にある。老人会からも声かけがあり交流が期待される。火災通報装置を活用し直接住民代表2名に通報できる協力体制がとれたことは安全の確保として安心できる。更に共に暮らす地域住民の一員として交流を深めホームの役割を果たすことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長・管理者・職員は自己評価・外部評価について、そのねらいや活かし方を会議で話している。前回の評価についても具体的に改善にむけ取り組んでいるが、職員の意見が一部分一致するには至っていない。今回の評価も全項目を検討し改善に取り組む方向にある。	<input type="radio"/>	自己評価及び外部評価を全職員にコピーし項目一つ一つを具体的に意見交換しながら理解と実践に繋げる取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期に開催しホームからの報告と共に参加者から意見を受け、サービス向上に取り組んでいる。職員の名前が分かるようにと要望を受け早速ユニットごとに顔写真と名前を明示している。緊急通報システムに地域住民に直接通報できる体制を確立して安全に留意している。	<input type="radio"/>	ホームからの報告と共に参加メンバーからの質問、意見要望を受け双方向的な会議となる配慮が望まれる。ホームの自己評価又外部評価結果を会議で報告し、改善や質の向上のモニター役として取り組む体制を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表は社協の評議員として、常に行政とも行き来し連携を蜜にしている。他町の福祉センターに出かけ利用者と交流したり、職員同士も情報交換しサービスの向上に取り組んでいる。又介護相談員の受け入れを予定している。	○	介護相談員の受け入れをきっかけに行政担当者に、ホームの実情や取り組みを伝え、認知症の研修や理解に協働関係を継続しよい関係づくりが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ほほえみたより」を発行しホームの様子、利用者の暮らしぶりを知らせている。金銭管理は自己管理者もいるが、多くは預かり金で月末に領収書を添え報告し精算処理している。家族の訪問時には利用者の状態を知らせたり要望を聞いたり話しかけている。運営推進会議にも報告している。	○	金銭管理は預かり金として毎月末に明細を報告し精算されているが、金銭については不審があっても言い出しにくいことを意識し、より正確さと安心のためサインなどで明確にすることを再考されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談窓口（ホーム担当者・行政・国保連・）と外部（地域住民）苦情相談員の所在を明示し意見・苦情が言いやすい配慮をしている。また運営推進会議にも参加を促し自由に意見が言える機会を設け運営に反映させる努力をしている。	○	地域住民を外部苦情相談員に選任したこと、又介護相談員の受け入れ準備をしていることに期待したい。更に家族会を設置することで「言いやすい」「聞きやすい」関係や雰囲気づくりに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者他少数の交代があったが馴染みの関係に混乱のないよう特に配慮し更に良い関係ができ、明るく、落ち着いた雰囲気のみられた。交代については利用者・家族に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常にホームは家庭であり、施設と違う接し方の大切さを話し合っている。今までは一部職員の研修に留まり、職員一人ひとりに応じた研修が計画実施されていなかった。現在全職員がその習熟度に応じて研修に参加できる計画、体制づくりを進めている。	○	個々の職員に応じた研修や勉強会（ビデオ学習で再確認する）に自発的に参加を促し、その力量向上を図る方向である。ホームに講師を招くことや講演会の計画もあり期待したい。又学んだことはレポートや発表の場を設け、全職員が共有できる仕組みも再考されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会東濃支部会議に参加している。管理者の会議、職員の会議で交流と意見交換をしている。	○	研修や講演会などの参加には、職員の負担や過重なく参加できる体制が望ましく、地域で合同の開催ができる働きかけや呼びかけなどで、相互の行き来、事例検討など工夫し、共に向上することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入所もあるが、多くは家族と何回もホームに遊びに来てもらい利用者馴染めるよう職員も配慮している。入所後も家族と連絡を密にし、利用者も家族も安心できる工夫をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとり出来る仕事(編み物・刺し子・料理・貼り絵・俳句)や料理を教わったり、手を繋いで散歩など一方的な支援にならない関係づくりを心がけている。日に何度かさびしくなる利用者には職員と一緒に座し肩に手を添えたり抱えたり利用者の想いを受け止めている姿を目にした。ここには喜怒哀楽を共に支えあう支援がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らしの想いを理解するためDシート(センター方式を簡略したもの)に収集し検討している。散歩の帽子も「どちらにしますか」と2個から選択の声をかけている。男性の利用者が洗濯物を取り込み一枚一枚丁寧に畳んで分けていたり、不自然さを感じない雰囲気をかもし出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現場職員の気づき、特記、記録ノートを連動させ、会議で意見を出し合い介護計画を作成している。	○	十分検討し作成されているが、更に職員一人ひとりのマネジメント力を高め利用者の保有能力維持に沿ったプラン作成を期待したい。寂しくなる利用者はいつ・どんなときに・なぜなど利用者の立場になって検討されることも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しが出来ている利用者とは出来ない利用者がある。変化が生ずれば即改善も直しをしている。記録書式を改善し家族・利用者の意見を聞き、職員が取り組む努力がホーム全体にあることがみられる。	○	日勤・夜勤者の申し送りを正確にし、気づきを記録に残し情報を共有することは、利用者の状況変化を早急に察知でき正確な見直しの時期となる。「変化のない利用者はない」と考え、見直しの重要性和その期間を定めることを再考されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム独自で、他市町村の温泉施設、福祉センター、明智回想法センターを利用しているが、多機能性を活かした支援について事業所(ホーム)の意識が希薄である。	○	指定の介護保険サービスに加え、ホーム独自の自主サービスの多機能性を活かした支援で、利用者や家族が安心して暮しが続けられるよう検討されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の主治医は、週1回往診があり変化や緊急時にはその都度相談助言できる関係がある。馴染みのかかりつけ医に通院する利用者もあり、家族と情報の伝達ができ家族・利用者が安心できる関係づくりができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態変化や機能低下にはその都度家族と連絡や相談をし、協力医療機関に伝え申し送りの中で共有している。ホームとして終末期ケアについて問題点・方向性に職員間で話しあう場をもっているが、現実困難な(医療面)点がある。	○	対応として医療面の充実が難しいが、勉強会などに参加し考えをまとめていく方向である。運営推進会議にも課題として提言し前向きに考える意向がある。本人や、家族の想いを尊重し、早期から話しあう機会を設けホームの方針の統一を期待したい。現在は認知症を重度化させない「生き生きとした生活を継続する」支援を進めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない関わりや、寄り添い、やさしい声かけを目にした。利用者の表情がおだやかなのが理解できる。居室に他人の侵入を嫌う利用者が出かける際には、入りにくい工夫をしている。居室のポータブルは気になった。	○	居室にポータブルトイレが無造作に置かれている。利用者が使用するか、しないかに関わらず、人目につくのは利用者にとってどうなのか？又他人の居室に入ってしまうのはどうしてなのか？その背景はなにかなどプライバシーの確保の観点から再考が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の1日の流れにしている。朝寝の利用者は10時に朝食である。散歩に出ない利用者は居間で職員と歌を唄っている。買い物に行く・カルタをする・行きつけの美容院に行く・指圧に行くなど希望にあわせ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専属調理人を配置している。野菜の皮むき、テーブル拭き、配膳の準備、後片付けなど利用者の力や意欲を確認しながら一緒に楽しみながら支援している。おやつ時間も決めているが利用者の食べたい時間に、種類も嗜好に合わせている。お茶もいつでも自由に飲める準備を検討している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守り入浴の利用者には相談しながら順番をかえ入浴している。着脱など羞恥心に配慮し安全の声をかけている。介助を要する利用者には職員体制の都合と安全を確保する上で昼間入浴になっているが、利用者一人ひとりの健康状態にあわせ入浴時間を確認している。	○	職員体制によって、夜間入浴の困難も考えられるが、利用者一人ひとりの生活習慣や時々の利用者の希望を大切に、ホーム主導が当たり前にならないような検討を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活体験で培った記憶をさぐり、得意なこと、楽しく出来る役割を見つけ、やりがいや満足感が得られる工夫をしながら、職員もその喜びを共有している。男性は毎日カレンダーをめくり、俳句を作り、季節を感じ、体操で筋力づくり、外出したり、回想法で昔を思い出し、一人ひとりが生きる楽しみを作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日は散歩にでかけ、買い物の希望も叶えている。通院時には外食する楽しみを作っている。月1回は明智回想法センターに出かけている。年間行事の日帰り温泉、花見など戸外に出かける時は、その都度希望を聞いたり家族の協力で計画実行している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は理解しており昼間は開放している。状態の悪い利用者の見守りに、一時的に施錠する時がある。以前地域住民の声かけて戻った事がある。又利用者が一人で草とりしてるのを心配して声かけてくれたり、地域の協力が得られている。	○	緊急やむをえない施錠も理解できるが、地域住民と顔なじみの関係や協力、有線放送・消防署の協力など安心できる。職員会議で、又運営推進会議などで起こりうるリスクについても十分話し合い、「鍵に頼らないケア」を実践されることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練、救急救命など災害を想定して職員のみで実施している。運営推進会議で緊急通報が地域住民3名に繋げる体制の承認が得られた。避難訓練を地域住民と一緒に実施する計画がある。	○	災害は突発発生と意識し、具体的な安全策を日ごろから確認しておくことが重要である。地域の協力体制、医療福祉関係の協力体制も確認していくことが望まれる。ホーム内での訓練には利用者の混乱ない配慮も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量など確認しながら1日を通して利用者の好みを入れ栄養バランスよく献立を作成している。誕生日、行事など季節感を感じるメニューで楽しんでいる。定期的に保健センターの栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は広く天窓からは青空が望め外気が入る。共有空間(玄関・廊下・浴室・トイレ)には手すりや安全の配置がしてある。土地特産の陶器の茶碗や、季語のある利用者自作の俳句も掲示して生活感が見られる。畳の空間で洗濯物を畳んでいる利用者の姿が自然である。	○	玄関先の空間の利用について、職員・利用者と一緒に話し合い、工夫され、利用者にとって居心地のよい空間・居場所になることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも帰れるよう布団を縛っている。バスの時刻表、カレンダー、時計、テレビ、洋服掛け(埃よけにカバー) 季節の花、観葉植物、ブラシ、新聞などがある居室と持ち物の多少に違いがある。家具や備品の持ち込みの制限はしていないが、個々に差がある。趣味を活かす道具はホームで準備保管している。居室の物品の多少でなく利用者一人ひとりの居心地よさ、安心できる居室づくりは違うと思われる。		